



森のなかま

2008年8月号

NO. 4 (継続149)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

やどりき水源林成長の森巡視事業がスタート

やどりき事業部・森林部会

神奈川県の新年度水源林保守管理委託事業の一つ「成長の森巡視事業」が5月末の見積り合せの結果、当会が落札・受託し、6月1日から巡視業務がスタートしました。

事業内容は、平成19年度に成長の森事業で寄付を受けた16ブロックの苗木5500本を健全に成育するために巡回管理、鹿柵等の保守点検、成育状況・周囲の植生調査、見学者への案内・説明を行うことを目的に、6月から翌3月までの毎月4回、2人体制で巡視する内容となっています。

今回の契約は、これまでの委託契約と異なり、見積りが労務提供単価ベースで積算されていること、契約形態が複数の団体を想定した見積り合せであったこと等、NPOとしてスタートしたばかりの我が会の業務受託の最初の一步にふさわしい、画期的な内容を持っていたのではないかと考えています。その意味では私たちの活動の内容・質が今後の事業の継続如何に関わるわけで、喜びとともに身の引き締まる思いを新たにしているところです。

すでに6月から8月までの担当は、皆様のご協力により決まっていますが、それ以降のローテーション、さらには次年度以降の事業拡大も予想されることから、会員の皆様のさらなるご協力・ご支援をいただけますようお願いし、「巡視活動」開始の報告といたします。

(成長の森巡視要綱)

1	期間	平成20年6月1日～平成21年3月31日
2	巡視ローテーション	各月4回(水曜日、ただし1月、2月は土曜日) *森の案内人と重ならない曜日とする
3	巡視人数・時間	各回2人体制、巡視時間はほぼ半日
4	巡視内容	1、巡回保守点検 2、調査 3、見学者への案内・指導 4、報告
5	報告	1、巡回保守点検日誌 2、定点木(19本)成長の様子報告
6	担当	やどりき事業部

鎌倉世界文化遺産登録 もう一つの視点 飯村 武

鎌倉市が世界文化遺産登録の準備を進めている。わが国において、古都と言えば京都や奈良が思い浮かぶが、鎌倉はこれらとは異なり、今から約800年前に源頼朝に寄って開かれた武家政権の都で、今日では多くの人びとがその歴史を訪ね親しまれている。

国連人間環境会議が1972(昭和47)年にストックホルム(スウェーデン国)で開催された。議題は地球規模の環境問題で、そのとき公害問題と共に自然環境や歴史的・文化的環境の保護対策の緊急性が提起され、同年の第17回ユネスコ総会において「世界の文化遺産と自然遺産の保護に関する条約」が採択された。つまり世界遺産とはこの条約により保護される世界人類共通の遺産である。

わが国の場合、1992(平成4)年に条約締約国(125番目)となり、文化遺産ではこれまでに法隆寺地域の仏教建造物など14の遺産が登録されている。

登録には次の4つのステップを経る。

- 1 暫定リスト掲載(候補の、国による推薦)
- 2 ユネスコ世界遺産センター受理
- 3 国際記念物遺産会議の現地調査
- 4 世界遺産会議で決定

鎌倉の場合、1992(平成4)年に暫定リストに掲載されており、現在「鎌倉市世界遺産協議会」が事務局になって準備を進めている。鎌倉の基岩は軟岩で、その地形は一般に「南に海を配し、三方山に囲まれ」と表現される。植生はヤブツバキクラス域に属し、暖性地の植物が主力をなす。武家政権として、これらの条件は天然自然の要害であり、ここに形成された街は正に城塞都市といえよう。

かくて協議会は、「武家の古都・鎌倉」をキャッチフレーズに、鶴岡八幡宮、建長寺、鎌倉大仏、朝夷奈切通、和賀江嶋(わが国最古の築港)など20数点で申請のまとめにかかっている。

源頼朝のもとに集まった武者たちは、東国・鎌倉を都と定め、武家統治の新時代を切り拓いた。寺の伐木禁制はその初期から始まった。この地を拠点と

した武者、僧侶、子女諸人は南の海の輝きに、三方の山々の常緑・落葉樹の織り成す森林に明日を託して信仰を深め、自己を律して文化を語り、歴史を綴ってきた。換言すれば、今に継承される遺産はこれら森林・緑との語らいの中で生まれ、培われてきた。1960年代前後の開発阻止運動は正にこの語らいの延長線上のものだ。阻止を通じてわが国のナショナルトラスト運動の魁となった「鎌倉風致保存会」の結成、「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」の発祥を見るが、運動の目指したものは「武家の古都・鎌倉」を護るための森林・緑の保全であった。

時代は進み今日の鎌倉の森林・緑を保全する上で注目されるのは「鎌倉市緑の基本計画」である。「都市緑地保全法」に基づき1996(平成8)年に策定された。樹林地など緑の現状(現存植生)をベースとし、その保全と新たな緑の創造の努力目標を示したものだ。文化遺産は中世の所産であり、話だ。当然、当時の植生は?と緑の夢は広がる。現存植生を眺める時の鏡として潜在自然植生図(その土地本来の自然の植生を表したもの、神奈川県教育委員会1975)が注目される。

鎌倉市域の潜在自然植生は次の4群集からなる。山地部がヤブコウジースダジイ群集・典型亜群集 谷部がイノデータブ群集・ケヤキ亜群集 平地部がイノデータブ群集・典型亜群集 海岸部がマサキートベラ群集

現存植生の以上の植生への復元誘導ということになるが、少なくとも候補遺産の周辺には誘導復元を図りたいものだ。また、多く武家遺産を容する鎌倉にとって、景観の維持・修景は忽に出来ない。これらの作業を進めるに当たっても潜在自然植生の相観が拠となる。

里山要素の位置づけも忘れてはならない。

ともかく、鎌倉の文化遺産登録にはまだまだ起伏があるようだが、我われはときに「武士は食わねど高楊子」、時に「いざ鎌倉」の姿勢で登録の今後を見守りたい。

私の認識

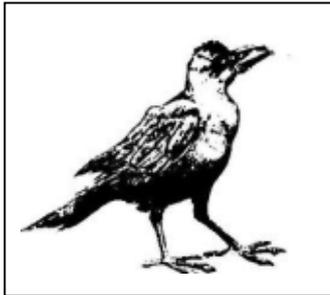
野鳥その59

高橋 恒通

今月もスズメ目カラス科の野鳥で留鳥或いは漂鳥のハシブトガラス(漢和名:嘴太鴉:嘴太鳥、英名: ジャングル・クロウ Jungle Crow) 体長L=57cm、同色、についてご案内しましょう。世界地図上での棲息分布は、ハシボソよりずっと狭く、サハリンから中国東北部朝鮮半島、中国南西部、ベトナム、タイ、インドネシア、ミャンマー、バングラデシュ、インドと、南北東西に妙な形の領域であります。

体色はハシボソと同様に、光の角度で緑色、薄紫色或いは青っぽく見える金属光沢のする黒色であると私は認識しております。

和名の根拠となった嘴は、上嘴がハシボソよりも太く長く、そして大きく湾曲し先端は下嘴の先端より少し長くて、恰もワシタカ類のその如き形をしています。更に、ハシブトの外見を特徴づける最大のポイントは、上嘴の付け根から90度位の角度で額がポッコリと盛り上がった点です。



ハシブトガラス

次が鳴き声です。大きな声で、“カアカア”と発声します。ハシボソの如き濁ったシワガ囁れ声は出しませんが、濁った声の個体もいます。

英名は Jungle Crow ですので本来は森林性の野鳥だと思いますが、我が国では海岸から高山まで何処でも見られます

但し、何でも食べる雑食性が高じて市街地で人間が出す生ゴミを漁ります。その折には、若し野良猫や野良犬が先客で来ていても、ハシブトはその強力な嘴で、相手の目や頭などを容赦なく突き追っ払います。他の鳥の巣を襲ったりもします。

従って市街地や都会で数を増やしているのは、ハシブトガラスの方だとも言われております。

そして、ゴミの処分場などで数百羽のカラスが群れているその殆どがハシブトガラスだそうです。

私は時々、東京国立博物館に行きますが、JR 上野駅を公園口から公園内を歩いて行くのですが、

公園内でウロチョロしているカラスは殆どがハシブトである事を確認しています。

昔からハシボソであれハシブトであれ、カラスはスズメと共に人間の営みと深く係っていたのは事実です。

童謡や童話にも取り上げられたり、地名にも例えば、「烏山」や「千歳烏山」等々ほかに都々逸の文句にも、“三千世界のカラスを殺し、主と朝寝がしてみたい”等と言う仲々艶っぽくツなものがあります。

或いは、“髪はカラスの濡れ羽色”とか“カラスの行水”、“権兵衛が種蒔けやカラスがほじる”等、人間との濃い関係が窺われます。

私の認識では、ハシブトもハシボソもカラスと言う野鳥ほど、羽博く時の羽音の大きい鳥は外に居ないのではないかと考えています。その羽音は“バサッバサッバサッ”と言う感じがしますので、頭上を低く飛ばれると瞬間に、つい首をすくめてしまいます。そしてハシブトは、ワシ・タカ類に対して「モビング」と称される、相手を攻撃し追い払う行動もよくしますから覚えて下さい。又、繁殖期のは電柱の天辺などディスプレイ鳴きをします。それは、頭をやゝ低めに前え伸ばし、尾羽を上下し乍ら「カハハ、カハハ」と聞こえる鳴き声を発します。

本稿をご愛読の同志の皆さんもカラスを見たら、「何だカラスか」と思わず「ハシボソかハシブト」かの判別を、上記の種々の所作から試みて下さい。

存外に楽しいものです。

= < 参考資料 > =

- ・とり、自然ガイド、浜口哲一・文、佐野裕彦・絵、文一総合出版。
- ・フィールドガイド日本の野鳥、野鳥ブックス2 高野伸二著、(財)日本野鳥の会。
- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/ 叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)上田秀雄、山と溪谷社。

本の紹介

やさしい 樹林気功 絵と文 藤田雅子



気は命、功は積み重ねるという意味があるそうです。自分が如何に生きていこうか・・・という哲学的な世界それが気功だそうです。

その気功を森林活動に適用して自然、特に森林に息づく種々の命の連なりの中には自然だけでなく、複雑な人の住む社会もあり、自分自身がバランスの良い視点を持つ人間として、健康な人間になりたいと思いを籠めて樹林気功とネーミングされています。

この本を開いて最初の頁に「これが大事だ!!」とあって**頑張らない!期待しない!楽しむましょう! ...リラックス...**と手書きイラストが描かれています。これには大賛成、この本の紹介も肩肘を張らずに楽しみながら書かせてもらっています。

文中の引用になりますが、「交流」という言葉を使っています。命同士の交流には取るも取られるも無く、自然という大きな治癒力が働いている中に、ただあなたと私が在る・・・。このような感じだと取る取られる、入れる吸うという発想が何とも陳腐なものに感じられませんか。それは人同士だけではなく豊かな森に向いてその森たちと命の交流をする・・・この発想を大事にしたい。この本は全6章にまとめられていて、最初の「序」で「交流」の意味を説き、本編で樹林気功の基本から詳細までをイラストをふんだんに使って解かり易く解説しています。第五章の「森での体ほぐし」では、「森を癒して下さっている皆さんへ」という枕詞で、森林作業を始める前後の準備体操・整理体操(気功)について解説されています。ボランティア活動開始時だけでなく、食後や休憩の後、活動を終えた後の収功(作業後の帰る前)、つまり、一日の活動を通して気功で体調を整える事で、事故を防ぐと共に気分転換を図り、明日への疲労を残さないよう無事に過ごせた一日を感謝する。この本で、深呼吸は息をまず吐いて、一・二拍置いて吸い始めるとより健康的と初めて知りました。

全国林業改良普及協会 1,800+税 (堤・記)

7月9日・「森林療法の現状と今後の展望」の講演会を受けて 波多野 慶(9期)

森林療法については、新聞・書物等で紹介された記事を読んだ位しかなく今回の上原先生のお話をとても楽しみにしていました。当日伺った先生のお話は期待通り大変興味深く、我々森林インストラクターの今後の活動の指針を示していただけたように感じました。講演の中で特に印象深かったのは、現代人が抱える様々なストレスの改善効果、「受容」と言う言葉で表現された来訪者への対応についての2点でした。まず現代人が抱える様々なストレスの改善効果についてですが、私自身、様々なストレスを抱え日常生活を送っています。しかし、森林インストラクターの活動で山に入った日は、何とも言えない心地よさを感じ、雑多な日常から開放されたように感じます。下刈りのような肉体的にはかなりキツイ作業も、苦痛ではなく心地よい達成感に覆われます。また、実際に作業現場で見かけた、その日初めて会ったと思われる一般参加の方々が作業後に満足そうに笑顔で話している姿、このような例は森林に癒されたと言えるものではないでしょうか。次に「受容」については、私なりに以下の様に理解しました。そして、森の案内人における自分の行動を改めて考えさせられました。～来訪者へ、植物・動物・森林の様々な知識を伝えることはインストラクターの重要な役割だがともするとそれは一方的な説明になってしまう事、対象者を自分の中に受け入れ、要望(知りたい事)を引き出し気持ちよく森林探訪ができるように手助けをする、そして心身共にリフレッシュし気持ちよく帰っていただく事～これは、言わずもがなではありますが、森林インストラクターとしての基本姿勢そのものではないでしょうか・・・もう一点、講演の内容ではありませんが印象に残ったことがあります。それは上原先生の話し方や仕草です。話の内容に合わせて声の強弱をつける、笑えるエピソードを所々に交え飽きさせない、表情豊かに話し聴衆を引き付けるテクニック、大変勉強になりました。今回の講演は、森林インストラクターとしての自分はもとより、日常生活にも役立てることができる大変有意義なものでした。第二弾、第三弾、森林療法実習の開催を期待しております。

山菜を楽しむ

その5 所変われば・・・ スベリヒユ(A) 有田保彰

所変われば品変わる。同じものが場所によりゲテモノだったり、珍味だったりします。

岐阜から長野にかけて、今でも、ザザムシやスズメバチを食べる地域があります。親バチの唐揚げやハチの子の刺身など、私も大好きです。という話をすると、多くの人が、驚きとともに拒絶反応を示します。

以前、ニューヨークで釣りをしていたときに立派なホウボウがかかることがありましたが、向こうの人たちは、このホウボウを忌み嫌って、

オー、シット(和訳する勇氣はありません)と言いながら、船底や船縁に叩き付け、遠くへ放り投げるのです。魚のくせに胸びれが鳥の羽みたいだとか、針をはずそうとするとグーと鳴くとか、赤茶紫青などの色が変わるとか、顔の形が台形だとか、いろいろ嫌う理由はあるようです。ニコニコと嬉しそうにホウボウを持って帰る私は、よく異邦人だというような目つきでジロジロ見られました。

そうそう、その姿や声などから、ホウボウは sea robin(海コマドリ)と呼ばれていました。

昨年の12月、国が郷土料理100選というものを発表しました。各地でさまざまな料理が盛んに作られている、という意味なら結構なのですが、実は逆のようです。その地方の独特の食材が、流通に乗せられるような纏まった量にならないので栽培されなくなった、その食材がないからその料理が作れない、料理できる人が少なくなった、家族揃っての食事とか冠婚葬祭など、大勢で食べる場面が減って、その料理の出番がこない、などもろもろの理由があるようです。先人が、長い年月をかけて、気候風土に合わせた知恵の結晶の郷土料理が、どんどんと消えていっているそうです。この100選は、そういう傾向に、少しでも歯止めをかけようと思図したものなのかもしれません。

さて、スベリヒユ。ポーチュラカという名で園芸店に出回っているマツバポタンの仲間です。ヤブガラシやペンペン草と同じように、畑のキラワレモノです。食用になるということは、以前から知っていましたが、たまたまテレビでアメリカの料理番組を見たとき、さも高級食材ですよという感じで紹介されていたのが、このスベリヒユ。さっそく食べてみたら、なんと

美味しいのです。

多肉質の葉をつけた茎が、地面を這うように放射状に伸び、調子がいいと直径30cmにも広がります。

イタドリでもなんでもそうですが、柔らかい太いものを選びます。我が家ではそのまま茹で、少し水にさらしてからぎゅっと握って水を切り、(このときニルツとしてきます)そばつゆなどでさっと味をつけておひたしで食べます。カラシで合えるとベストです。季節柄ビールにぴったりです。茹で水は、きれいな淡いピンク色になります。

太めの茎のジャキジャキとこのニルツと、バラバラにとれる葉が口の中のあちこちに貼りつく感じと、ほのかな酸味と、いかにも草だなどという風味が微妙に混ざりあい、ハーモニーを奏でます。オススメの一品です。

かなり長い間採れますが、種ができてくると歯にジャリジャリと当たっていやなので、これを一手間かけてとらないといけません。

後で知ったのですが、山形ではこれをヒョウと呼び、たくさん採れたら、茹でてから日干しにして保存するほどポピュラーだそうです。

物の本によると、麵の薬味、汁の具、酢味噌、煮付け、お浸し、油炒めなどが良いとのこと。

ほとんどの山菜は天ぷらでいけるのですが、なぜかスベリヒユを天ぷらで、とは書いてありません。オオバコと同じように肉厚の葉の中の空気が破裂でもするのでしょうか。

利尿、解毒、浄血などの薬効があるそうです。(つづく)



画 有田保彰

活動短信

6/1 ~ 6/21

、県民参加の森づくり

- 日 6月1日(日) 晴れ
 場 小田原市久野塔の峰
 参 一般ボランティア24名(申込45名)
 公 豊丸、稲場、廣島(看護師)
 イ L戸谷6 国分3 古館4 釘宮6 杉戸6
 伊藤恭7 篠木7 鈴木昭7 松村俊8
 浦野8 草野8 高田9
 研 石田順、上田、小澤、後藤

前日の荒天がうそのようにさわやかに晴れわたり、陽のあたる急斜面での下草刈りを行った。当初予定の前日が雨のため予備日になり、一般申込の参加者が約半数で、インストラクターも参加できない方もいて、研修生に応援を頼んだ。このため5班編成を4班に縮小し作業に入った。植栽樹種は、ヒノキ、カエデ、ヤマボウシ、コナラ、カツラであるが、ヒノキやカツラは樹高4-5mのものもあり、成長ぶりがうかがえた。木の根元付近まで下枝が張り出しており、カマ使いに皆苦労の様子だった。少人数の割に作業は順調に進み、ケガ等なく早めに終了した。昼食後、リーダーの戸谷さんのミニ講座は、二酸化炭素と森林にまつわる話をされた。わが国の一家庭の年間CO₂排出量に対し、これを吸収する整備された森林は、約0.5haであり、皆さんの協力により地球温暖化に歯止めがかかることを期待を込めて話を締めくくられた。予定より30分程早くバスに乗車、小田原駅で解散した。

(記 9期 高田)

野外体験学習

- 日 6月6日(金) 12時~15時
 場 愛川ふれあいの村
 参 茅ヶ崎市立松林中学校2年生(自然観察グループ); 120名(12班) 教員; 2名
 イ L高橋、宮本、斎藤、伊藤、加藤、松山

朝方まで続いた雨はあがったが、梅雨の蒸し暑さでヤマビルの歓迎間違いなしの空模様。

「自然観察を通して森林について学ぶとともに自然

の恵みに感謝する心を育てる」ことをねらいとして、2グループに分けての案内であった。12時15分から「はじめの会」。生徒の挨拶に続いて高橋リーダーが自然観察の心得を話し、順次森に向かった。300mほど歩いた辺りで、早くも男子生徒のスニーカーにヒルのお出まし。塩水で退散させたが、キヤーキヤーの騒ぎ、暫らくの間足元を気にしながら進めた。自然観察路に入り『質問・案内板』を中心に案内して一周りした。広場に下りて全員ヒルのチェックをした後、暮しにかかわる森の働き、CO₂・地球温暖化問題・癒しなどの説明をして、13時40分第一グループの観察終了。

引き続き第二グループのスタート、幸いヒルの出現もなく順調。終盤、雑木林の説明のため歩を緩めていた時、突然足下の方からガサゴソの物音と共に中型犬ほどの子鹿が駆け登って来、列を割ってそのまま山頂へ走り去った。その疾さに一同唖然としながらも、小鹿に遇えた感動を胸にして下山。全員が無事に揃った14時50分から「終りの会」、生徒代表の「お礼の言葉」を以って終了、予定時刻15時解散した。

結果として、懸念されたヒルの被害も2,3人と軽微であったのと、事前の打合せで、『今回は1時間程の自然観察なので、道中では細かい説明を省き、まとめて森の話をしましょう』との高橋リーダーの指針に従い、予定の時刻に終了することが出来て良かった。

(記 10期 松山)

県民参加の森づくり

- 日 6月14日(土) 10時~14時 晴れ
 場 三井水源林内ボランティア林の下刈り
 参 県民21名
 イ L塩谷 柏倉、佐藤武、鈴木孝、富樫、武者、篠木、谷津、植松、浦野、久保、村井、岩田、金森、矢澤、森、
 公 茂木課長、稲葉、青木(看護師)

8日(日)の予備日だった為、参加者が52名から21名に激減した。3班編成に変更し、インストラクターも作業指導・安全管理+下刈り作業にも汗を流した。本日は、神奈川新聞社の取材が入り、写真撮影やインタビューなども行なわれた。

1 班の現場ではスズメバチや落石などに出会ったが、事故に繋がる事は無かった。

現場に到着する迄に1名が心拍数UPとなり看護師の世話になったが、その後に回復し作業に加わった。

この現場は、H14年3月に8種類の広葉樹を植えたところで、木もかなり成長しており、そろそろ下草刈りも卒業かなという感じである。

昼食後、ミニ講座を行ない終了となったが、参加者の杉原幹夫さんが今回で100回目のボランティア参加という紹介があり全員から拍手がわいたが、このような人に対しては感謝状なり、記念品を差し上げてはどうかと思った次第である。

(記 7期 塩谷)

第5回自然観察会～森の働きを学ぶ～

日 6月14日(土) 10.00～15.00 晴れ

場 21世紀の森

参 6名(子供1名)

イ 山崎、加藤

足柄グリーンサービス： 内田所長、布施、菅原
育林隊長

募集40名であったが、当日参加の2名を加えて参加者は6名であった。参加者の関係で、下見も組分けもせず内田所長の案内で、内山林道～セントラル広場～天然の森コースを全員で歩き、スギやヒノキの採種園、樹木園、展望台や所、球果乾燥舎等を見て回った。道々、ヌルデを食い荒らしているクスサンの幼虫、ウツギの花に集まっていたアサギマダラ、参加者が見つけたウスバシロチョウやフクロスズメの幼虫等を観察すると共に保安林や林道の役割、森の状態や生態等について話し合った。参加者には途中、丸太切りや菅原さんの実演指導による草刈機での下刈等の体験もして頂いた。最後に森林の地球環境への影響、森林の保全活動、森林の心身に与える効用等の話をしたが、今回の観察会は今までにないユニークな観察会だったと参加者には好評であった。(記 8期 加藤)

ネットワーク活動「上下流域小学校交流」

日 6月19日(木) 10:00～15:30

場 相模原市立青根小学校 学校林内

参 青根、宮上、串川各校、4年5年生合同交流授業

30名 (生徒269名・先生他35名)

イ 大塚、中島、

「上下流域小学校交流」として日頃交流のない道志川流域の3校が合同で「森の恵み」「森林の大切さ」「森林の機能」「水を大切に」をテーマに学校林のなかで自然観察をしながら学ぶ。「間伐」「下草刈り」「針葉樹林」「広葉樹林」など観察するポイントを7ヶ所に設定、グループで移動してきた。生徒達に森林の大切さを教えると全員が心に耳を傾け、静寂な森のなかで鉛筆だけがキラキラと動いていたのが心に残る。当然、生徒達からも質問満載でした。今回は地元の林業関係者のボランティアで整備された林道、下草刈り、間伐のおかげでその効果も大でした。幸い梅雨の中休みで天候にも恵まれ無事終了することができました。決定してから活動までの期間が短かったことや、下見なし、現地までのアクセス等悪い条件もありましたが、「水源地域」の人達が熱心に森を育み、水を育み地域一体となって活動している姿に頭がさがる思いでした。(記 9期 中島)

森林づくり体験講座

日 6月21日(土) 天候：曇り

場 秦野市寺山槻沢1735-2外(水源林ヤビツの森)

参 10名(予定19名)

イ 吉山(リーダー)、島岡、柏倉、小野、松本、渡辺、飯澤、高田、金森、杉崎、松山、研修梓後藤

公 茂木課長、鳥海、廣島(看護師)

講 川又正人氏

この時期のイベント開催は、本当に担当者泣かせと思います。茂木課長におかれては、実施連絡の録音をセットされてから寝不足で、胃がきりきりと痛んだと思います。私にも某インストラクターから、再確認の連絡が入り、「予定通り」と答えるのが辛い状況でした。

ベースキャンプに着いたところから、心が通じたのか、最後まで雨は降るのをやめてくれました。作業は昨年植栽した広葉樹の下刈で、この斜面は風が強いため、あまり生育は良くなく、また、鹿が中に入ったようで、フンがいたるところに転がっていた。

午後に川又講師の講座(材木の比重の実験、水源林の浄化効果実験、目が不自由な人達への森林体験講座)を実施。茂木課長にとって長い一日のようでした。翌22日(日)は予報通りの大雨。

(記 3期 吉山)

やどりき水源林
ミニガイド

7月のトピックス

- ・オオルリやホトトギスなどの夏鳥やウグイス、ミソサザイなどの合唱が響き渡っています。
- ・モモンガ、ムササビの巣箱を設置しました。
- ・水生生物の調査でヤマメを捕獲することが出来ました。なお、調査後、沢に放流しました。(体長約11センチ)



8月の水源林

- ・「20年度成長の森」区域の伐採作業が行われます。材は、ケーブルクレーンを使って林道まで搬出します。モモンガ、ムササビは新居に引っ越してくるでしょう。
- ・タマアジサイの花が見頃となります

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度(冬季休止)

集 合：水源林入口ゲート前

内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(社)かながわ森林づくり公社 県民運動課

Tel 0465-85-1900

● ホームページ：

<http://www.ny.ai.rnet.ne.jp/k.sinrin/>

● やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

森林浴を楽しもう!

大和市しらかしのいえボランティア協議会ガイド部会では毎月第2日曜日、泉の森で「自然観察会」を開いてます。8月のテーマは「森林浴を楽しもう」です。-参加無料

日時：8月10日(日)

時間：13時～15時

集合：泉の森しらかしの家前

問い合わせ：TEL 046-264-

(8期の加藤さん提供) 6633

大和市しらかしの家観察センター

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 手書き原稿送り先 >

鈴木松弘

〒253-0062

茅ヶ崎市浜見平 16-2-401

Tel/Fax：0467-83-8461

Mail：suzuki-m@tbc.t-com.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷 6-22-1-420

Tel/Fax：045-476-4112

Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良 2丁目 10-5

Tel/Fax：045-961-6695

Mail：ik_forester@jcom.home.ne.jp

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野 2-13-7

Tel/Fax：042-796-6011

Mail：morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

日本中、エコ時代に入った。熱しやすく冷めやすい日本人の習慣性。私も家の中の待機電流を冷蔵庫は除いて全て止めた。これなら続けられそうだ。ささやかに扇風機の風がやさしく感ずるが、蒸し暑い。耐乏耐乏夏本番!! (鈴木)

最近ショックがひとつ、18年8月6日にやどりきでの親子体験に一般参加、いい味出してるインストラクターさんに憧れて10期養成講座に申し込んだのですが、その方見かけないと思ったら亡くなったとのこと、心から服部さんのご冥福をお祈りいたします。(金森)

暑い日が続いています。この時期は飲み水が手放せませんね。森林ボランティア活動にも厳しい季節です。皆さん熱射病に気をつけながら、乗り切りましょう! (森)

母が吐血して緊急入院、95歳 病床で「こうなったら100を目指さなきゃね。」不屈の闘志に敬服。(村井)

会社の帰り、団地の中を歩いていると、集会所で子供たちが盆踊りの練習をしているのを見かけました。もうすぐ夏祭りの季節です。(井出)

今月は、<老子>からご紹介します。「上善は水のごとし」最高の善とは水のごときものをいう。水は万物を助け育てながらも自己主張せず、誰しも嫌う低きへ低きへとくだる。だから「道」に似ているといつてよい。こんな名前のお酒もありましたね。水って、奥が深いなと思います。(森本)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。

振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信

広報部：井出恒夫、鈴木松弘、

村井正孝、金森 巖

森 義徳

酒沢フェスティバル開催 8月24日(日)～8月26日(火)

富士山の次は北アルプスの酒沢だ!!

酒沢フェスティバルに参加したいけれど、1人では不安という方向けに上高地から酒沢までの往復をご案内します。山のガイドとツアーリーダーが同行。酒沢での滞在は山小屋滞在プランとテント泊プランをご用意。お好きな滞在方法をお選び下さい。ツアーのお手伝いはアルパインツアーサービス株式会社が担当します。

お問い合わせ： TEL：03-(3503)1911 info@alpine-tour.com

プログラム一覧

山ヨガ、最新山用具モニター、山のファースト・フード、山の写真教室、山岳スケッチ入門、星降る夜のキャンドル?サービス、山岳映画祭、大プレゼント大会、山のロープワーク講習会、山の天気入門、山の地質学、《ツアー》奥穂高岳登山ツアー、《ツアー》北穂高岳登山ツアー、《ツアー》パノラマ新道から屏風の耳

<http://www.alpine-tour.com> 〒105-0003 港区西新橋2-6-11第7東洋海ビル